元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐　勉　　2024年11月05日　第1192号「週刊五十嵐レポート」

30歳だったら日本で仕事する

日経新聞10月の「私の履歴書」はKKR共同創業者のヘンリー・クレビス氏。クレビス氏は、企業買収ファンドの仕組みを1970~80年代に創り、発展。その後、業績が低迷する多くの企業を再生させてきた。外国人として日本を見てきた。彼の言葉を拾ってみた。

日本で成果を上げるには、とてつもない忍耐と長期的な視点が欠かせない。最初の買収まで10年待てないなら行かない方がましだと腹をくくった。

日本企業の風土は「We can't(できない)だった。我々は「We can(できる)」だ。日本企業のトップから「変わりたくない」という雰囲気が伝わった。

私が日本のCEOに「子会社は何社ありますか？」、「そのうち中核子会社は何社ですか？」と聞いた。CEOは「2000社。すべてが中核だ」と答えた。とても無理だ。企業の手に余る子会社は我々のような会社が買収して成長のために投資すれば、グローバルに戦える企業になれるはず。

日本の人口は減りつつあり、経済は縮んでいく。企業は資本もアイデアも外部から取り入れるべきは明らか。だが文化的な理由から多くの企業幹部は変化に抵抗し、尻込みしていた。

大手銀行の幹部100人を集めた場で講演し、檀上からの景色に驚いた。性別や国籍の多様性がなかった。「国際的ではありませんね」。銀行の会長は「気づきませんでした」。

若手が活躍する場も限られている。日本企業との会議で多くの若手は無言でメモをとっている。KKRの会議では若手から意見を述べる。多くの面で、若手は企業を一番知っている。若手が先輩に遠慮して言いたいことが言えないのはやや危険だ。

それでも日本企業は変わった。女性や外国人の登用も徐々に増えた。若い起業家と会食するが、変化に対する意欲は明らかに高まってきた。

今30歳だったら日本で仕事をする。

私は常々外国から日本を見ることを意識している。ようやく日本が真の意味で面白くなってきた。

ちょっと気になる出来事

11月2日付日経新聞、「固定資産税収増、自治体9割」という記事。

地価上昇や企業誘致で増える固定資産税収を生かし、子育て支援などを充実させる自治体が増えた。22年度は9割弱が21年度より税収を伸ばした。

岩手県軽米町は複数の大規模太陽光発電所を抱える。震災後再エネ普及を進め、22年度の再エネ関連の固定資産税は6億7000万円、町の税収全体（14億1900万円）半分を占めた。

九州福岡市の23年度固定資産税収は前年度比5.2%増の1368億900万円と過去最高で市税収全体の3割以上を占める。税収を押し上げたのは地価の上昇、12年連続で上昇中。

自治体の税収が増えることは住民に還元されることなのでいいこと。失われた30年からようやく日本が浮かび上がる気運が高まってきた。

そういえば、確かに自分の固定資産税額が増えたなと感じていた。当事者にとっては、支払いが多くなる。地域のことが考えて「良し」としよう。

一口メモ
知識

驕りは失脚の兆し

貴（たっと）くして位なく、高くして民なく、賢人下位にあるも輔（たす）くるなし。

どんなに優れた人でもトップの座に長くいると必ず驕（おご）りが出てくる。

社会的リーダーが失脚する兆候（ちょうこう）として表れるのが、人の意見を聞かなくなること。いくら賢い部下がいて、意見しようとも耳を傾けなくなり、そのうちに自己中心的になって正しい判断力を失う。

そうなると人はついて来なくなり、リーダーとは名ばかりになってしまう。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com